



# 年頭の ご挨拶

土岐市議会議長 楓 博元

土岐市長 加藤靖也



明けましておめでとうございます。  
昨年は9月、10月に「ぎふ清流国体」と「ぎふ清流大会」が開催されました。土岐市におきましては、セラトピア土岐でエイトリフティング競技、総合公園でソフトテニス競技が実施されました。大会役員や関係者、ボランティアスタッフの皆さまのお力添えもあり、多くの来場者にお越しいただき、大変素晴らしい大会となりました。あらためてお礼申し上げます。

また、昨年も「市長と語る会」を市内8カ所で開催させていただきました。参加された皆さまから施策への提言や身近なお困り事に対する要望など、多くのご意見を伺うことができました。市長と語る会は、直接皆さまのお声を聞かせていただく貴重な機会であり、今後も市政運営に役立っていくと考えております。

市況は依然不安定であります。地域経済活性化のためには、地場産業である陶磁器産業の振興とともに、新しい企業の誘致が必要だと考えております。

明けましておめでとうございます。市民の皆さんにおかれましては、希望あふれる輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平素は、市議会に対し深いご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、米国の景気回復の減速、欧州のEU加盟国の財政不安など世界経済が揺れる中、わが国では、自然災害や原発事故による電力不足が社会・経済に大きな影響をもたらしました。

こうした中、長期化する経済不況は市民生活の根底に関わる社会保障制度へも極めて大きな影響を及ぼし、行政需要はその量・質ともますます複雑多様化するなど誠に厳しい状況となっております。

今日、国と地方が対等なパートナーシップの関係へと転換し、地域の自主性や自立性を高め、地域のこと、地域で責任をもって行えるよう、行政体の権限と責任は日ごとに高まっています。

土岐市議会では、本会議や常任委

員会での一般質問や議案審議を通じて、市民ニーズを適切な形で市政運営に反映させるとともに、分権時代にふさわしい議会を構築し、議会改革を推進しているところであります。

また、地方分権の進展に伴い、市民の自治行政に対する関心が高まる中、住民自治の時代にふさわしい地方政府のあり方を探り、市民の皆さんとともに歩む議会を確立するため、議会基本条例の制定を目指しております。そして、市民生活最優先の原則の下、福祉、医療、環境、産業振興、まちづくりなど、山積する諸課題の解決に向け果敢に取り組み、土岐市に住んで良かったと実感できるまちの実現に向けて、精一杯努力してまいります。

どうか一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、すがすがしい新年の門出に当たり、皆さまのご健康とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のあいさついたします。

昨年、新たに3社と企業立地協定を締結することができました。これまで進めてきた企業誘致活動は、着実な成果を上げております。土岐市の産業基盤がさらに強固なものとなるよう、引き続き積極的な誘致活動を進めてまいります。

本年2月には、東海環状自動車道五斗ヶ崎スマートインターチェンジが開通予定です。高速交通網が充実することで、沿線地域をはじめ広域にわたって物の流れ、人の流れが活発となり、地域活性化に弾みがつくものと期待を寄せております。

さらに、まちにぎわいを取り戻すため、新土岐津線整備事業や駅前広場整備事業に取り組むほか、災害対策事業などを進め、土岐市が着実に前進する年にしたいと考えております。

市民の皆さんには、本年も市政運営へのご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、ご健勝とご多幸を心からお祈りし、年頭のあいさつをいたします。